品質管理監査の充実を

県生コンクリート工組総会

共同化、集約化の重要性を述べる桑木理事長
＝鹿児島市のベイサードガーデンで

県生コンクリート工業組合（桑木喜行理事長）は18日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第26回通常総会を開き、品質管理監査の充実や共同試験場設置などを重点項目とする新年度事業計画を決めた。

総会では、初めに桑木理事長が経済環境が目まぐるしく変化していく現状と需要量が先行き減少していく厳しい現実を十分に再認識し、より高度な品質管理の確立と、組織による共同化、集約化の重要性を述べ、議長に村上冨士雄氏（鹿屋小野田レミコン㈱）を選出し議事に入った。審議では15年度事業報告・収支決算、16年度事業計画・収支予算案など6議案を全て原案通り可決承認。また、役員補充の件では下村満雄氏（種子島協同コンクリート工業㈱）を推薦承認した。

新年度事業計画の重点項目は、①品質管理監査の充実②工場集約化事業の推進③与信管理と債権管理の徹底④骨材確保対策の推進⑤関連業界との情報ネットワーク化の推進⑥県コンクリート骨材対策協議会等との協調⑦共同試験場準備室設立―など。16年度の需要量は、官公需は減少傾向、民需はやや増加するものと予想されるが、港湾、漁港、道路、河川工事など一部継続的需要なども見込まれることから、年間225万立方㍍（前年比92・4％）の出荷を見込んでいる。

共同試験場準備室設立へ

来月3日に設立総会

共同試験場は、国が官民の役割分担の見直しと規制緩和の観点からJISマーク表示認証制度については17年度までに、民間事業者がつくる登録機関による実施へ移行することを決定。これに対応するため、7団体で構成する県コンクリート骨材対策協議会では、検討を行ってきており、共同試験場設立準備室を設置し、積極的に取り組んでいくことにしている。なお、同協議会では6月3日午後5時から、同準備室設立総会を開く予定で、今後の対応・運営についての本格的な検討を進めていく。

また、同総会に先立ち、県生コンクリート協同組合連合会（桑木喜行会長）の第5回通常総会も開かれ、組合員の相互扶助と信頼、団結により組織の活性化を図り、共販事業や工場集約化事業の推進などを柱とする新年度事業計画等を決めた。

県積ブロック工業組合総会

新理事長に加藤氏選出

加藤淳一新理事長

県積ブロック工業組合（中西伸一理事長）は18日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第31回通常総会を開き、コンクリート骨材対策事業の推進などを盛り込んだ新年度事業計画を決めたほか、任期満了に伴う役員改選では、新理事長に加藤淳一氏（㈱田島コンクリート工業・川薩支部）を選出した。

総会に先立ち、長年の功績を称え、長期勤続従業者4人を表彰した後、中西理事長が「厳しい状況の中、前年度の積・基礎ブロック出荷量は離島地区で減少したが、本土地区ではともに伸びてきており、特に基礎ブロックはほぼ定着しつつある。マザーズロックⅡ型についても、基礎ブロック並みの普及に向け尽力してまいりたい。また、設計単価も積ブロックが8年、張ブロックが15年ぶりに価格改正された。今後も、ブロックの適正価格への引き上げ等を積極的に推進してまいりたい」と挨拶。

引き続き、松田祐治氏（有大口コンクリート工業・姶良伊佐支部）を議長に選出し議事に入り、15年度決算関係報告、16年度事業計画・収支予算案などを審議した結果、原案通り可決承認した。また任期満了に伴う役員改選では、新理事長に加藤氏、副理事長に松田氏と本田義道氏（日新コンクリート工業㈱・南薩支部）を選出した。

加藤新理事長は「新役員及び会員皆さまのご協力をいただきながら、事業計画に基づき各種事業を推進してまいりたい」と抱負を述べた。

適正価格への引き上げ推進を――と挨拶する
中西理事長＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

新年度事業計画は、組合員相互の信頼を強め、協調して企業の発展を目指すことを柱に①積・張ブロックの適正価格への引き上げ②積・張ブロック、基礎ブロック、マザーズロックの利用促進③コンクリート骨材対策事業の推進（県建設資材7団体連絡協議会との連携で、骨材の安定供給、シラス骨材の試験、共同試験場設立準備の検討）④工場検査の実施と技術研修会の開催⑤陳情及び要望―などを掲げている。

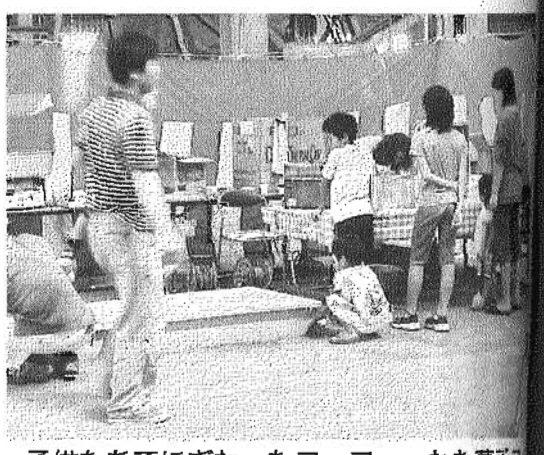
新役員及び表彰者は次の通り。

【新役員】理事長＝加藤淳一▽副理事長＝松田祐治　本田義道▽理事＝中西伸一（南州コンクリート工業㈱・鹿児島日置支部）中馬四郎（南九州コンクリート工業㈱・同）岩元明（㈱川辺コンクリート・南薩支部）尾堂友紀（鹿児島共和コンクリート工業㈱・姶良伊佐支部）飯牟禮忠幸（コーアツ工業㈱・川薩支部）徳峰行夫（㈱サンコー・大隅支部）山下勉（インフラテック㈱・同）▽監事＝中間庭崇（南州コンクリート工業㈱・鹿児島日置支部）出水天（㈱土佐屋・姶良伊佐支部）小野耕三（薩摩産業㈱・川薩支部）

【表彰者】長期勤続従業者・30年以上＝上野忠則（南州コンクリート工業㈱本社工場）▽同・15年以上＝水岡弘子（コーアツ工業㈱川内工場）樋口勝雄（同大隅工場）五反田勝子（南薩積ブロック協同組合）

恒例の日建市にぎわう

延べ約1,800人訪れる


子供たちでにぎわったヨーヨー、わた菓子コーナー＝鹿児島市のIHI鹿児島工場跡地で

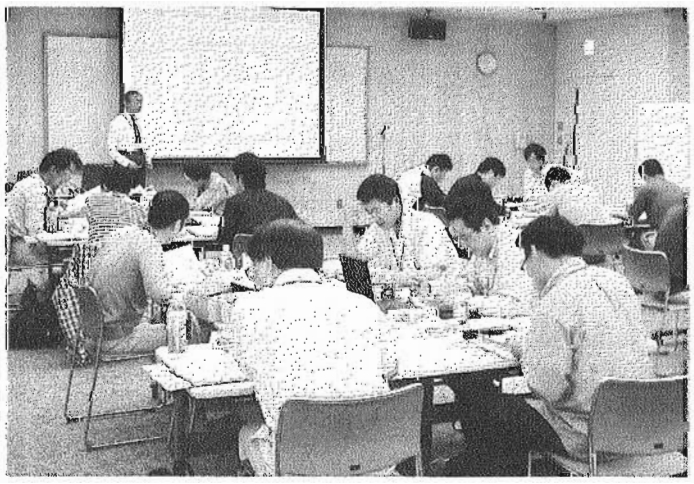
㈱日本建機リース、㈲ショーワ、日本機械工業㈱、㈲江口建機サービス、㈲カミテックの5社主催による恒例の建設機械大展示会「第19回日建市」が14日から16日までの3日間、鹿児島市七ツ島の石川島播磨重工業鹿児島工場跡地で開かれ、あいにくの雨模様のなかにも係わらず建設関係者や家族連れら延べ780社、約1800人が訪れた。

初日の14日は、関係者らを前に㈱日本建機リースの上籠裕社長や九州キャタピラー三菱建機販売㈱の四村邦徳鹿児島支店長などがテープカットを行い、3日間のスタートを切った。今回は「元気出そう！力を創る日建市」をテーマに、約30社のメーカーが協賛し、会場には、各種建設機械や測量機器などが多数展示され、新型機試乗コーナーでは実際に操作して性能を体感、ゴルフ用品、介護保険対応の福祉器具、カメラや貴金属などの展示コーナーを新たに設けたほか、食事・遊戯コーナーでは、うどん・そばやカレー、各種飲み物ほかヨーヨー釣り―など行列ができていた。

また、㈱日本建機リースが5月1日よりスタートさせた環境事業部（加藤義輝部長）が、その主力商品である消滅型バイオ式生ゴミ処理機「マジックバイオくん」の実演コーナーでは、18年度から施行される食品リサイクル法を間近にした食品関連事業者などが熱心に質問していた。

ITコーディネータ研修

資格取得へ20人受講


資格取得に向け熱心に受講する参加者
＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

ITコーディネータ協会は4月17日から7月4日までの15日間の日程で、鹿児島市のかごしま県民交流センターを会場に「ITコーディネータケース研修」を実施している。研修6日目の15日は、経営戦略策定から運用サービス・デリバリまでのケース演習が行われた。

同研修は、ITコーディネータ（真に経営に役立つIT投資を推進・支援するプロフェッショナル）の資格を取得するために必要な研修。同資格を取得するためには、同研修の全15回のうち90％出席し、かつ試験に合格して初めて取得できるもので、認定は同協会が行う。

今回の研修は、ITコーディネータの川畑一輝氏、ITC鹿児島会の山下博美氏（鹿児島頭脳センター所長）が講師を務め、ITベンダーの社員ら20人が資格取得に向け受講しており、15日は四つのグループに分け、①経営戦略の策定②戦略情報化企画③情報化資源調達④情報システム開発・テスト・導入⑤運用サービス・デリバリーまでを行った。